県道中主－野洲線工事に伴う
上屋遺跡発掘調査報告書

1985

滋賀県教育委員会
滋賀県文化財保護協会

序

滋賀県教育委員会では活力のある県民社会、生きがいのある生活を築くための一つとして、文化環境づくりにとりくんでいます。そうした中で文化財の保存と活用を図る施策のうち、開発に伴う埋蔵文化財の保護も重要な課題となっております。

先人の遺してくれた文化財は、現代を生きる我々のみならず子々孫々にいたる貴重な宝でもあります。このような大切な文化遺産を破壊することなく、後世に引き継いでいくためには、広く県民の方々の文化財に対する深いご理解とご協力を得なければなりません。

ここに県道中主一野洲線工事に伴う上屋遺跡発掘調査報告書の成果を取りまとめまして、ご高覧のうえ今後の埋蔵文化財保護のご理解に役だてていただければ幸いです。

最後に、発掘調査の円滑な実施にご理解とご協力を頂きました、地元の方々並びに関係機関に対して厚く感謝の意を表します。

昭和61年3月

滋賀県教育委員会

教育長　南　　光　雄

例　　言

1. 本報告書は、県道野洲－中主線工事に伴う、野洲郡野洲町に所在する上屋遺跡の試掘調査報告書である。
2. 調査は、滋賀県土木部道路計画課の依頼にもとづき滋賀県教育委員会が調査主体となり財団法人滋賀県文化財保護協会実施機関となり実施したものである。
3. 現地調査は財団法人滋賀県文化財保護協会埋蔵文化財課調査二係技師木戸雅寿が担当し実施した。
4. 調査にあたり、棚橋茂・辻峰子・小林義幸・山元孝信・深尾隆・奥村正則・小林正彦の各氏の協力を得た他、野洲町教育委員会の花田勝広・森　隆、両氏のお世話になった。ここに記して謝意を表わしたい。
5. 整理及び報告は、辻峰子の協力を得て木戸雅寿が行なった。

目　　次

1. 調査に至る経過と調査の方法 …… 1

2. 位置と環境 …… 1

3. 調査と結果 …… 3

4. 遺　　物 …… 5

5. ま と め …… 6

図　版　目　次

図版 1.　出土遺物　（上）

E地区　調査地全景　（下）

図版 2.　E地区　3G　（上）

E地区　4G　（下）

図版 3.　E地区　5G　（上）

E地区　6G　（下）

図版 4.　E地区　7G　（上）

E地区　8G　（下）

図版 5.　E地区　9G　（上）

E地区10G　（下）

図版 6.　E地区11G　（上）

E地区12G　（下）

図版 7.　柱状断面図

（1G～4G）

図版 8.　柱状断面図

（5G～8G）

図版　9.　柱状断面図
（9G～12）
図版10.　グリット配置図

挿　図　目　次

第1図　周辺遺跡位置図 …… 2

第2図　遺物実測図 …… 5

1．調査に至る経過と調査の方法

県土木部道路課によって計画されていた野洲－中主線道路工事は、その事業対象地内に数カ所の埋蔵文化財包蔵地が知られていた。県教育委員会では、昭和57年度より依頼に基づき原因者である道路課と調整に入り、順次用地買収の済んだ部分に関して工事にさきだつ発掘調査を実施する事となった。中でも野洲町内の東海道本線から童子川に至る区間ではすでに昭和57年度に実施された大津－長浜能登川幹線より中北までの区間（A区）に於いて東端40mの間に遺跡が確認され、次いで昭和58年度には、その部分の発掘調査が実施され、引き続き中北集落より農免道路までの区間（C区）、大津－長浜能登川幹線より旧朝鮮人街道に至る区間（B区）の試掘調査を実施した。その結果は関連遺跡発掘調査報告書Ⅰとして報告されるところである。さらに昭和59年度はB区の試掘調査結果に基づき、その一部を上屋遺跡として発掘し、次いでD区として農免道路から童子川間の試掘が行われ、中北遺跡の拡がりが認められている。

昭和60年度は旧朝鮮人街道の東、上屋の集落の北、字五十軒町、高蔵、黒土を通りぬけ、農免までの区間をE区として、周知の遺跡上屋遺跡の存在の有無と範囲を確認する為試掘調査を実施した。

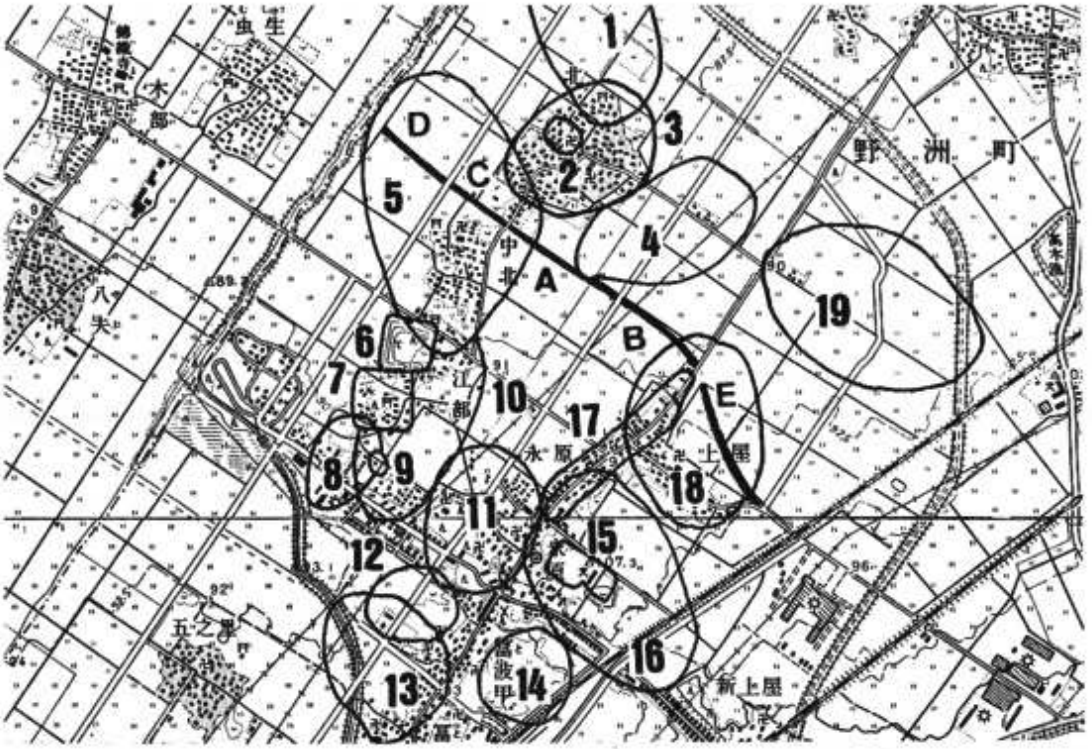
調査の方法は3m×3mのグリットを約30～40mのピッチで設定し、順次、発掘調査用に鉄板をはかせたバックホウにより造成用盛土を除去したのち、実測と写真により全て記録し資料とした。

2．位置と環境

当遺跡は鈴鹿山脈南部に存在する御在所岳にその源を発する野洲川によって、上流において琵琶湖層群や花崗岩地を浸食しつつ運んできた土砂により形成された緩扇状地野東部に立地する。付近には特に緩扇状地によって発達した自然堤防状の微高地に遺跡が連綿と存在する古代史上も重要な拠点のひとつであり、周知のとおり、北から弥生～奈良時代を中心とする北北遺跡、北村城跡を中心として北遺跡（中世）、近年白鳳寺院跡の存在が確認されつつある北東遺跡、奈良時代に中心を持つ中北遺跡、永原氏の拠点であった永原御殿（中世～近世）、永原廃寺跡（白鳳）、それらをとりまく様に江部遺跡

（弥生～平安時代）三堂遺跡（弥生～中世）、上田常念寺遺跡（平安時代）、野々宮遺跡（弥生～江戸時代）、上永原城跡（中世）を中心とした上永原遺跡（平安～中世）、下町遺跡（中世）、そして本遺跡で今回の調査の対象地域である上屋遺跡、またその北側には上屋北東遺跡の存在も確認されている。

今回の調査ではこの上屋遺跡のほぼ中央より北側よりを東から西へ対象地が貫いており、そういう意味においても上屋遺跡の種類・規模・性格、を知る上で注目視されるところであった。



1. 北北遺跡（弥生～奈良）
2. 北村城跡（中世）
3. 北遺跡（室町～）
4. 北東遺跡（白鳳）
5. 中北遺跡（奈良）
6. 永原御殿跡（中世～近世）
7. 永原廃寺跡（白鳳）
8. 江部西遺跡（古墳）
9. 福泉寺遺跡（室町）
10. 江部遺跡（弥生～平安）
11. 上町常念寺遺跡（平安～）
12. 三堂遺跡（弥生～鎌倉）
13. 常楽寺遺跡（鎌倉）
14. 野々宮遺跡（弥生～江戸）
15. 上永原城跡（中世）
16. 上永原遺跡（平安～室町）
17. 下町遺跡（中世～）
18. 上屋遺跡
19. 上屋北東遺跡

第1図　周辺遺跡位置図

3．調査の結果

(1) E地区の試掘結果

E地区では全長約４００mの対象地域を約30m間隔でグリット（G）を12箇所設定した。以下に各々のグリットにおける簡単な層位の説明を述べていくこととする。

１G 深さ３mほど掘り下げた。層位は、上より順に造成によって盛られた土が厚く２層90cm、淡黒灰色砂泥30cm、暗灰色泥砂８cm～16cm、淡白色粗砂10cm、淡緑白色荒砂５cm～22cm、黒灰色砂泥10cm～20cm、暗緑灰色細砂15cm～40cm、暗白灰色粗砂・白灰色荒砂30cm、黒紫灰色シルト30cm、暗白褐色荒砂と砂泥・泥砂・粗土・砂がほぼ交互にき、幾度となくおそった家棟川の氾濫をみることができる。

２G 深さ２m60cmほど掘り下げた。層位は上より順に造成による盛土が65cm、次に淡茶褐色砂土20cm、灰色砂土20cm、黄色砂泥５cm～15cm、紫灰色泥砂25cmこの層中にＫＨ－１、ＫＨ－２等の遺物や炭が出土している。茶褐色泥砂10cm～20cm、黄褐色荒砂10cm、暗灰色泥砂10cm、緑白色泥砂10cm、黒灰色泥砂20cm、淡緑白色細砂25cm、白灰色荒砂と続く。状況は１Ｇと同様である。

３G 深さ２m80cmほど掘り下げた。層位は上より順に造成による盛土が厚く２層１m20cm、その下に白褐色粗砂55cm、黒紫褐色粘土30cm、白色荒砂と続きひどい湧水を見た。状況は１Ｇと同様である。

４G 深さ２mほど掘り下げた。層位は上より順に造成による盛土が２層70cmあり、次いで白褐色粗砂10cm～20cm、灰色粗砂５cm～15cm、黒灰色泥砂５cm～20cm、暗灰色粗砂15cm、黒灰褐色砂泥10cm、黒色粘土15cm、黒茶褐色粘土15cm、暗青灰色粗砂15cm、明緑青色粘土と続く。状況は１Ｇと同様である。

５G 深さ１m45cmほど掘り下げた。層位は上より順に造成による盛土50cm、暗褐色粗砂15cm、黒灰色泥砂20cm、黒紫灰色粘土15cm～20cm、淡青灰色砂と続き湧水を見た。状況は１Ｇと同じである。

６G 深さ３mほど掘り下げた。層位は上より順に造成による盛土が50cm～70cm、黒灰色泥砂30cm、緑青灰色砂15cm、灰色荒砂８cm、暗灰褐色粗砂12cm、黒灰褐色砂10cm、暗黒灰褐色泥砂10cm、暗褐色荒砂40cm、黒色泥炭粘土60cm、木葉腐

食土と続く。状況は１Ｇと同じである。

７Ｇ　２ｍ80㎝ほど掘り下げた。層位は上より順に暗茶褐色砂50㎝、黒茶灰色砂12㎝～18㎝、黒褐色泥砂12㎝、淡茶褐色荒砂15㎝、黒灰色粘土15㎝、淡黒灰色粘土22㎝、緑灰色砂15㎝、白褐色荒砂35㎝、茶褐色荒砂12㎝～28㎝、黒色泥炭粘土45㎝～55㎝、青緑色粘土８㎝、暗緑灰色荒砂と続く。状況は１Ｇと同じである。

８Ｇ　２ｍ70㎝ほど掘り下げた。層位は上より順に暗茶褐色砂58㎝、褐色砂12㎝、黒褐色泥砂22㎝、淡茶褐色荒砂15㎝、黒茶褐色荒砂18㎝、緑灰色砂15㎝、黒灰色砂28㎝、白褐色荒砂40㎝、黒色泥炭粘土20㎝、青緑色粘土25㎝、黒茶色粘土と続く。状況は１Ｇと同じである。

９Ｇ　２ｍ60㎝ほど掘り下げた。層位は上より順に茶褐色土35㎝、暗茶褐色土25㎝、黒褐色砂泥14㎝、淡茶褐色荒砂22㎝～36㎝、茶褐色荒砂12㎝～40㎝、黒灰色粘砂20㎝～28㎝、白褐色荒砂32㎝、黒灰色粘土52㎝、暗緑灰色荒砂12㎝～22㎝、黒茶色粘土と続く。状況は１Ｇと同じである。

１０Ｇ　２ｍ60㎝ほど掘り下げた。層位は上より順に茶褐色土28㎝～50㎝、黒褐色砂泥18㎝、茶褐色荒砂32㎝、青灰色砂32㎝、暗白褐色荒砂16㎝、白褐色荒砂10㎝、黒灰色粘土75㎝、暗緑灰色粘土20㎝、黒茶色粘土42㎝、暗黒色粘土20㎝、明黄緑色砂と続く。状況は１Ｇと同じである。

１１Ｇ　２ｍ60㎝ほど掘り下げた。層位は上より順に暗灰褐色土28㎝、黒褐色砂泥22㎝～32㎝、暗灰褐色荒砂54㎝～70㎝、黒灰色粘土40㎝、暗緑灰色粘土40㎝、黒茶色粘土32㎝、青灰色粘土34㎝と続く。状況は１Ｇと同じである。

１２Ｇ　３ｍ80㎝ほど掘り下げた。層位は上より順に現代人によって投棄されたいわゆるゴミである廃棄物の層が35㎝ほどあり次いで暗灰褐色土22㎝、暗茶褐色土15㎝この層中にＨ－１、Ｔ－１等の遺物が包含していた。次いで黒褐色砂泥20㎝、白褐色荒砂10㎝～22㎝、淡黒灰色砂泥12㎝、白灰色荒砂10㎝、暗白灰色荒砂28㎝、灰色粘土44㎝、暗紫灰色粘土52㎝、暗茶色土（木葉を含む）56㎝、青緑色粘土22㎝、暗青緑色砂32㎝、暗茶色腐食土42㎝、以下黒色粘土と続く、状況は３層目に遺物が出土はしているが、遺構はなく出土状況、層位から判断して１Ｇ同様、幾度かの洪水による堆積であると考えられる。

4. 遺　物

KH－1

2Gの第5層（紫灰色泥砂）中より出土した。近江型黒色土器塊の口縁部の破片である。全体にローリングを受け摩滅をしているが、内面口縁部に一条の沈線が、外面口縁部に横ナデによるやや外反する段が認められる。

KH－2

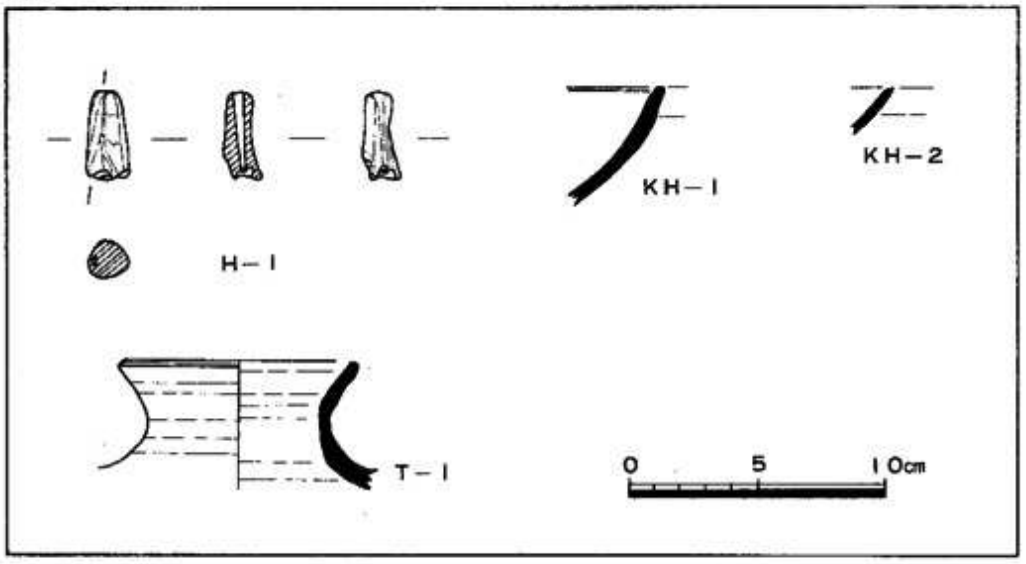
2Gの第5層（紫灰色泥砂）中より出土した。近江型黒色土器塊の口縁部の破片である。全体にローリングを受け摩滅をしているので調整を認める事はできないが、内面口縁端部に一条の沈線がみられる。

H－1

12Gの第3層（暗茶褐色土）中より出土した。器具又は器物の一部を構成すると思われる土製品である。外面を指圧でナデて成形している。破断面のある方より前方に向かい先細りとなりその中央より片側よりに小孔が通してある。

T－1

12Gの第3層（暗茶褐色土）中より出土した。常滑小壺の口縁部である。胎土は密で堅く焼成は良い。内外面ともロクロによる横ナデが認められる。時期は不明である。



第2図　遺物実測図

5. ま と め

最後に試掘調査の結果をまとめとして述べることとする。

今回E地区として試掘調査を実施した当該対象地域は県の遺跡台帳上上屋遺跡のほぼ中央を貫いている。現在までこの上屋遺跡の付近では遺跡を破壊する様な開発行為は行われていず、よって発掘調査などによる遺跡の明確な性格の把握はなされておらず、そういう意味でも今回の調査は遺跡の密度や内容、範囲を知る上で注目するところであった。

調査の結果は前述のとおりであるが、1Gの第5層や第3層で若干の遺物は出土を見たが、出土状況はよくなく、かなりの摩滅をしており雨水等により流れついたものと判断できる。層位に於いても1G～12G全てに於いて3m近くまで粘土、砂泥、砂等が薄く交互に幾層も続き明らかに幾度となく見舞われた河川の氾濫による堆積の状況がよく確認され何れの層に於いても土壌が安定せず集落が立地するには不善の地であったと思われる。

以上の事から今回の対象地域には遺跡は存在し得なかった。しかしながら出土した遺跡から察して中世の集落跡が周辺近くに存在する可能性は非常に高く、その位置も今回の調査地区のすぐ南側より現上屋集落を中心とする当たりに比定する事ができ、今後とも周辺部に注意を払い歴史の解明の為、留意する必要性があるといえる。

KH−1

T−1

KH−2

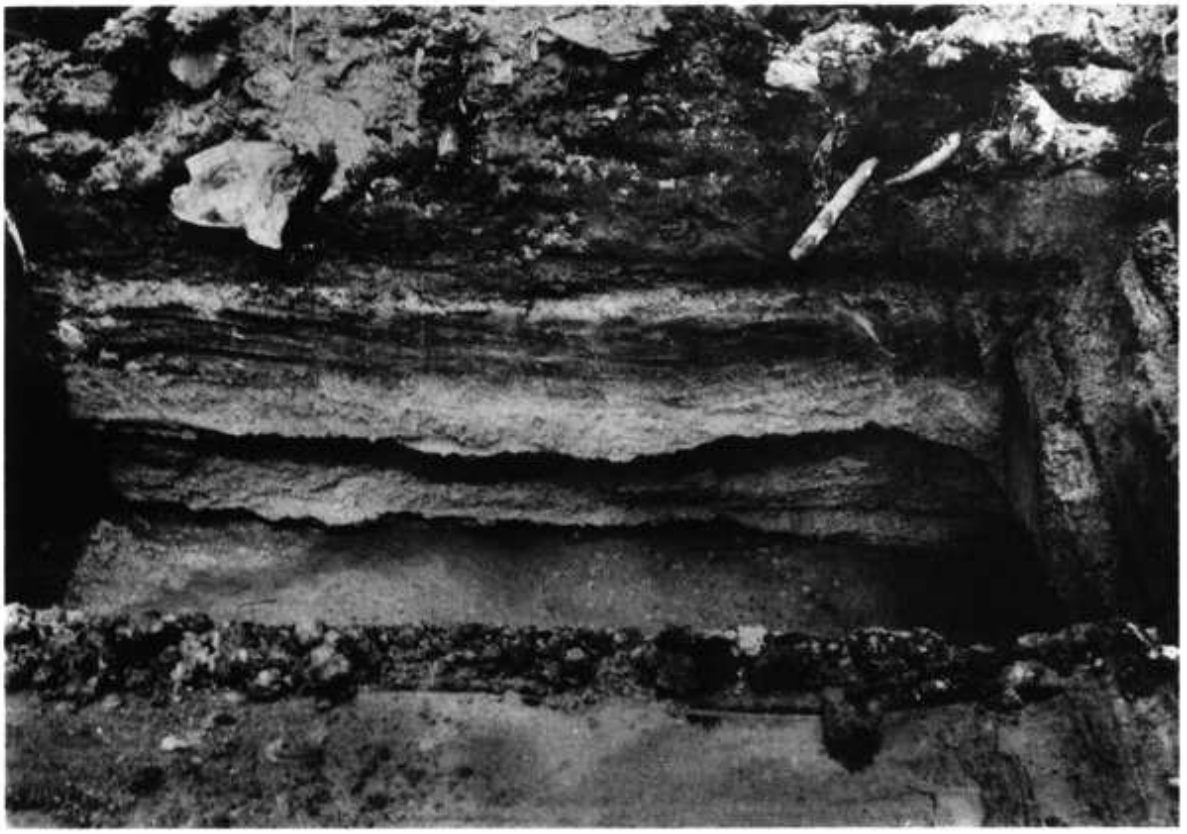
D−1

出土遺物

E地区　調査地全景（東より）

E地区　3G

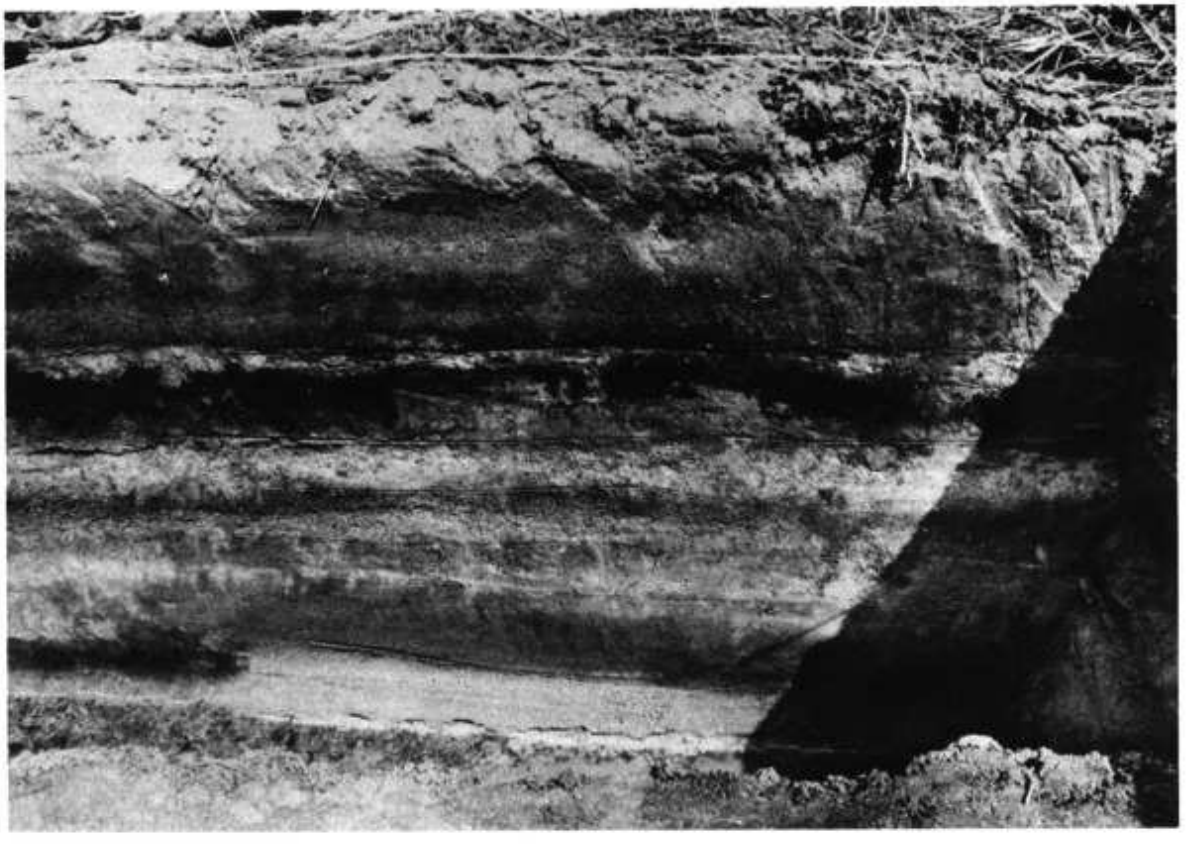
E地区　4G



E地区　5G

E地区　6G

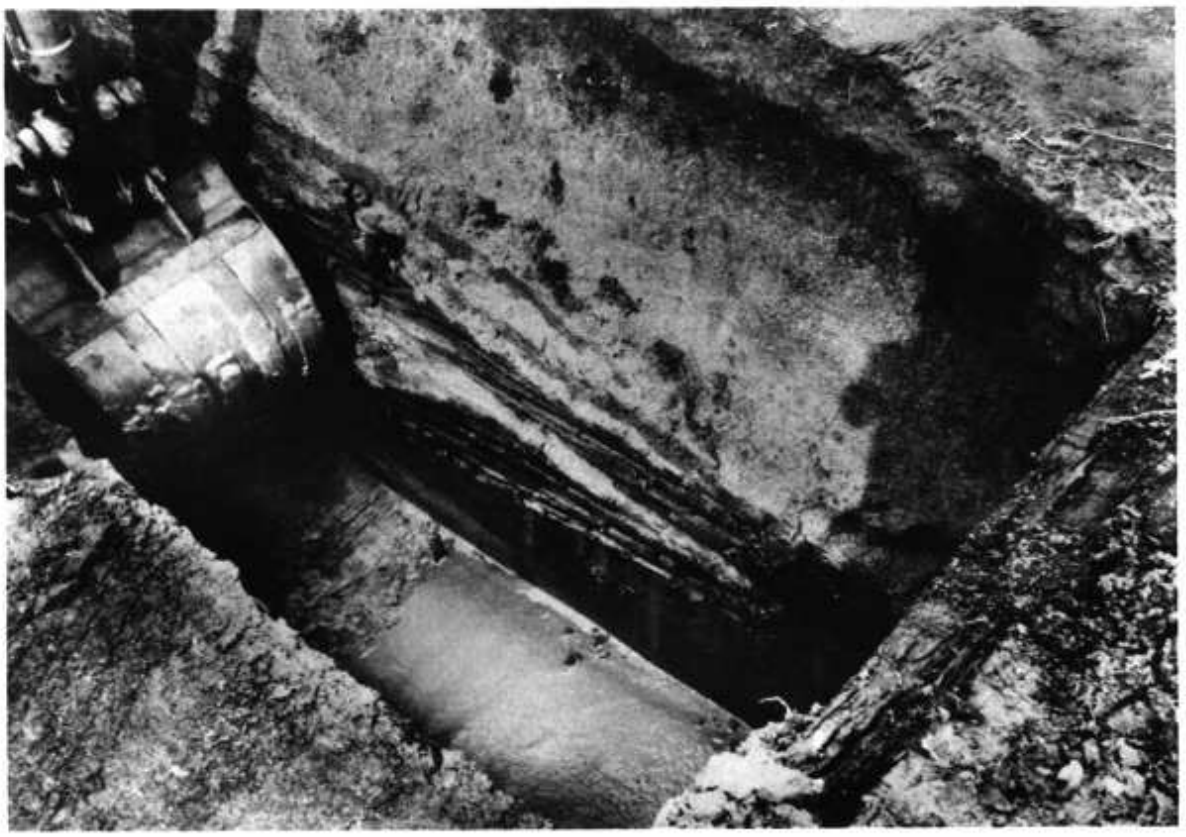
E地区　7G



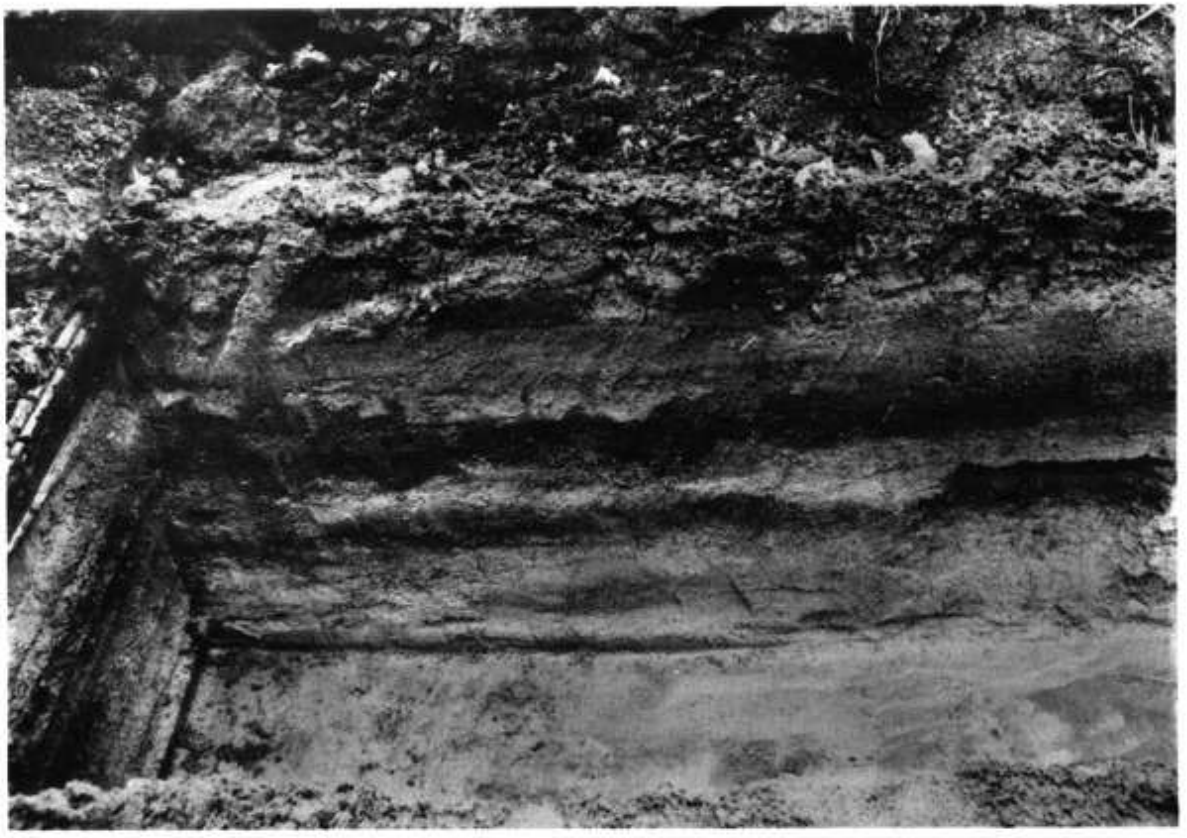
E地区　8G

E地区　9G

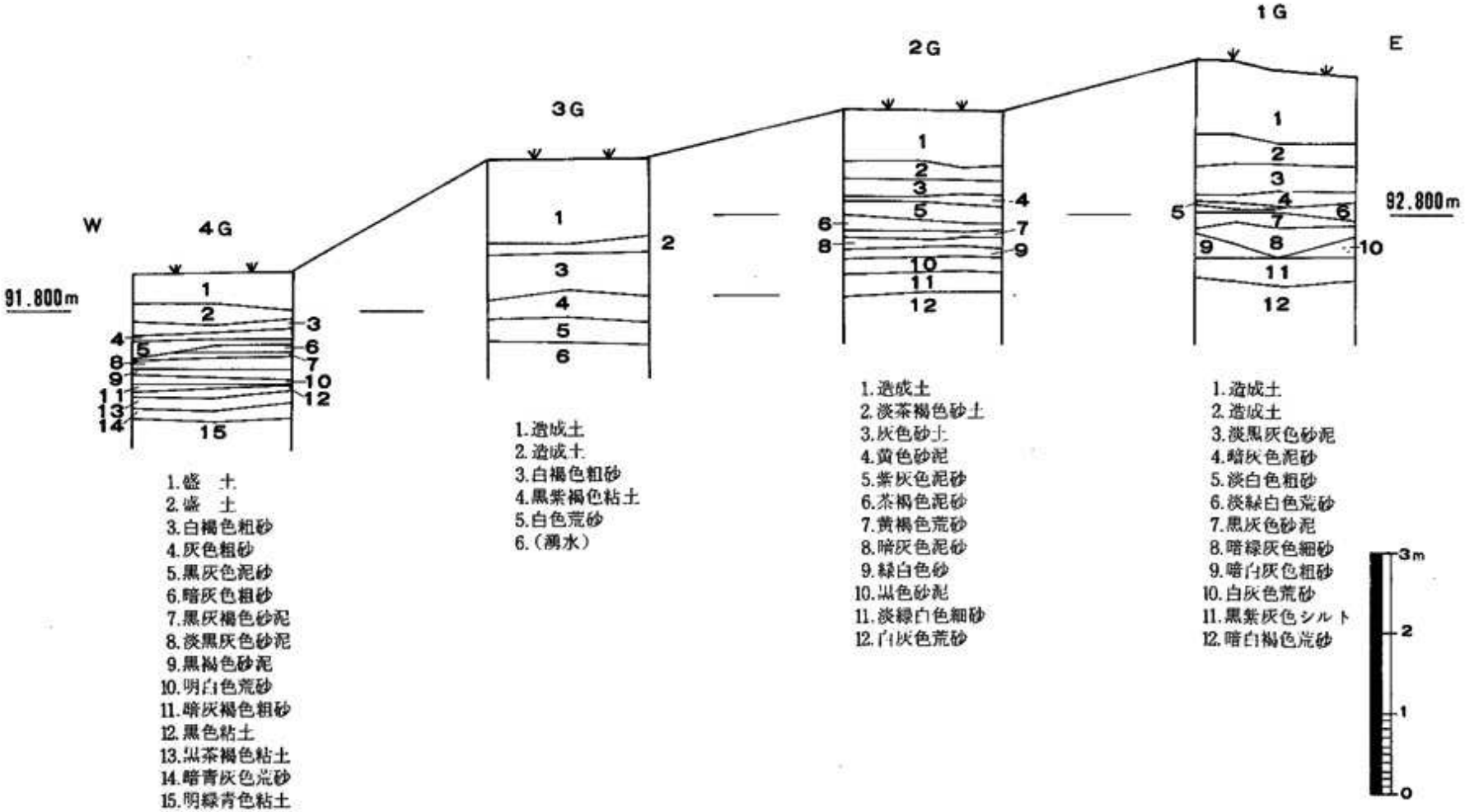
E地区　10G



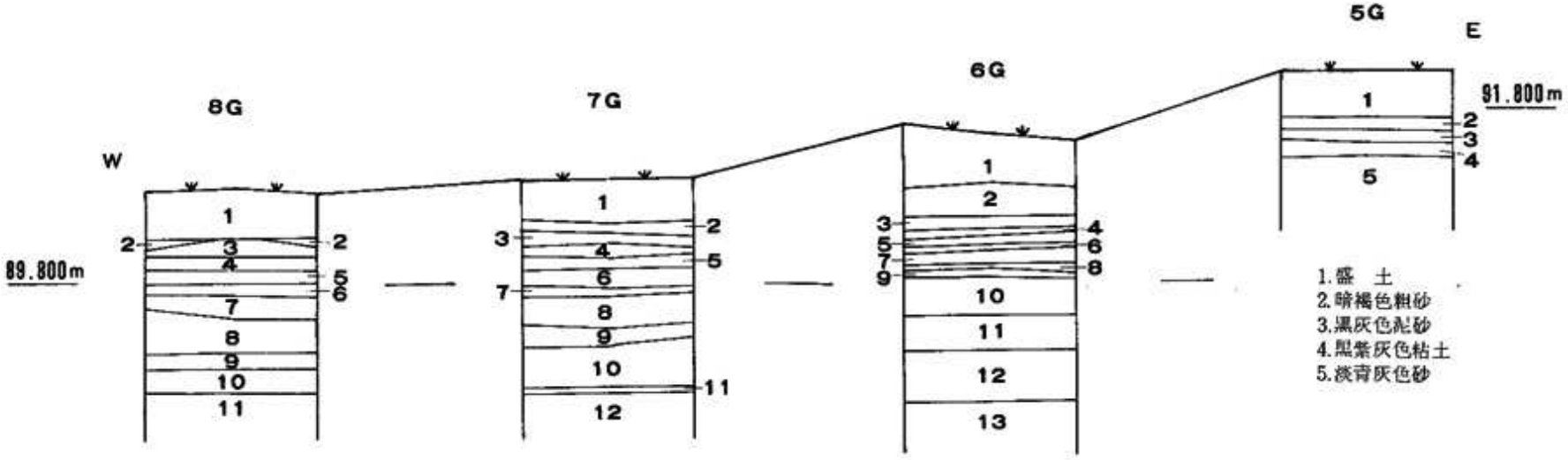
E地区　11G



E地区　12G


W
4G
3G
2G
1G
E
91.800m
92.800m
1.盛　土
2.盛　土
3.白褐色粗砂
4.灰色粗砂
5.黒灰色泥砂
6.暗灰色粗砂
7.黒灰褐色砂泥
8.淡黒灰色砂泥
9.黒褐色砂泥
10.明白色荒砂
11.暗灰褐色粗砂
12.黒色粘土
13.黒茶褐色粘土
14.暗青灰色荒砂
15.明緑青色粘土
1.造成土
2.造成土
3.白褐色粗砂
4.黒紫褐色粘土
5.白色荒砂
6.（湧水）
1.造成土
2.淡茶褐色砂土
3.灰色砂土
4.黄色砂泥
5.紫灰色泥砂
6.茶褐色泥砂
7.黄褐色荒砂
8.暗灰色泥砂
9.緑白色砂
10.黒色砂泥
11.淡緑白色細砂
12.白灰色荒砂
1.造成土
2.造成土
3.淡黒灰色砂泥
4.暗灰色泥砂
5.淡白色粗砂
6.淡緑白色荒砂
7.黒灰色砂泥
8.暗緑灰色細砂
9.暗白灰色粗砂
10.白灰色荒砂
11.黒紫灰色シルト
12.暗白褐色荒砂
3m
2
1
0

図第十　地質断面図



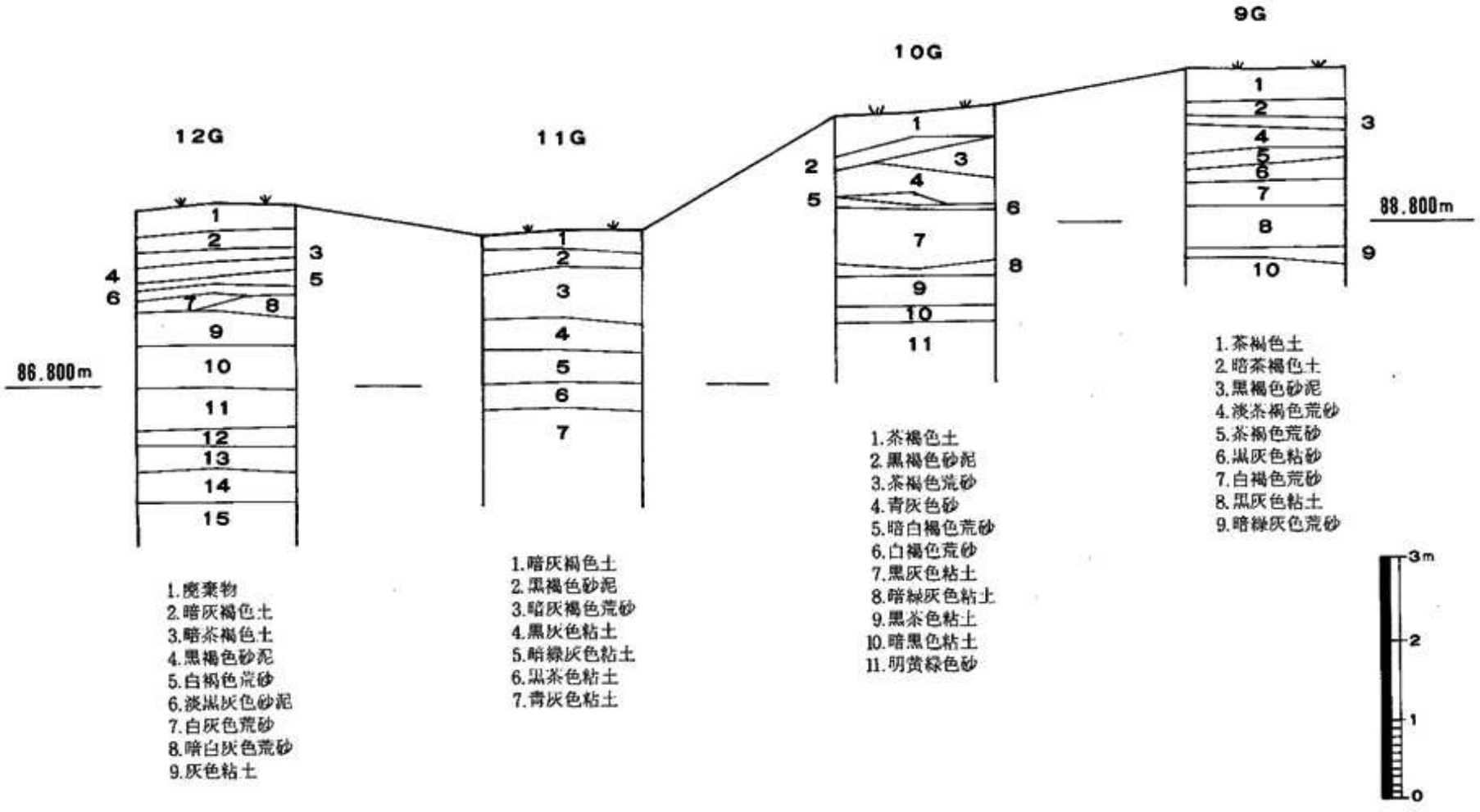
1.暗茶褐色砂
2.褐色砂
3.黒褐色泥砂
4.淡茶褐色荒砂
5.黒茶褐色荒砂
6.緑灰色砂
7.黒灰色砂
8.白褐色荒砂
9.黒色泥炭粘土
10.青緑色粘土
11.黒茶色粘土

1.暗茶褐色砂
2.黒茶灰色砂
3.黒褐色泥砂
4.淡茶褐色荒砂
5.黒灰色粘土
6.淡黒灰色粘土
7.緑灰色砂
8.白褐色荒砂
9.茶褐色荒砂
10.黒色泥炭粘土
11.青緑色粘土
12.暗緑灰色荒砂

1.盛　土
2.黒灰色泥砂
3.緑青灰色砂
4.灰色荒砂
5.暗灰色粗砂
6.黒灰褐色砂泥
7.暗緑灰色荒砂
8.暗灰褐色砂
9.暗黒灰褐色泥砂
10.暗白褐色荒砂
11.茶褐色荒砂
12.黒色泥炭粘土
13.木葉腐食層

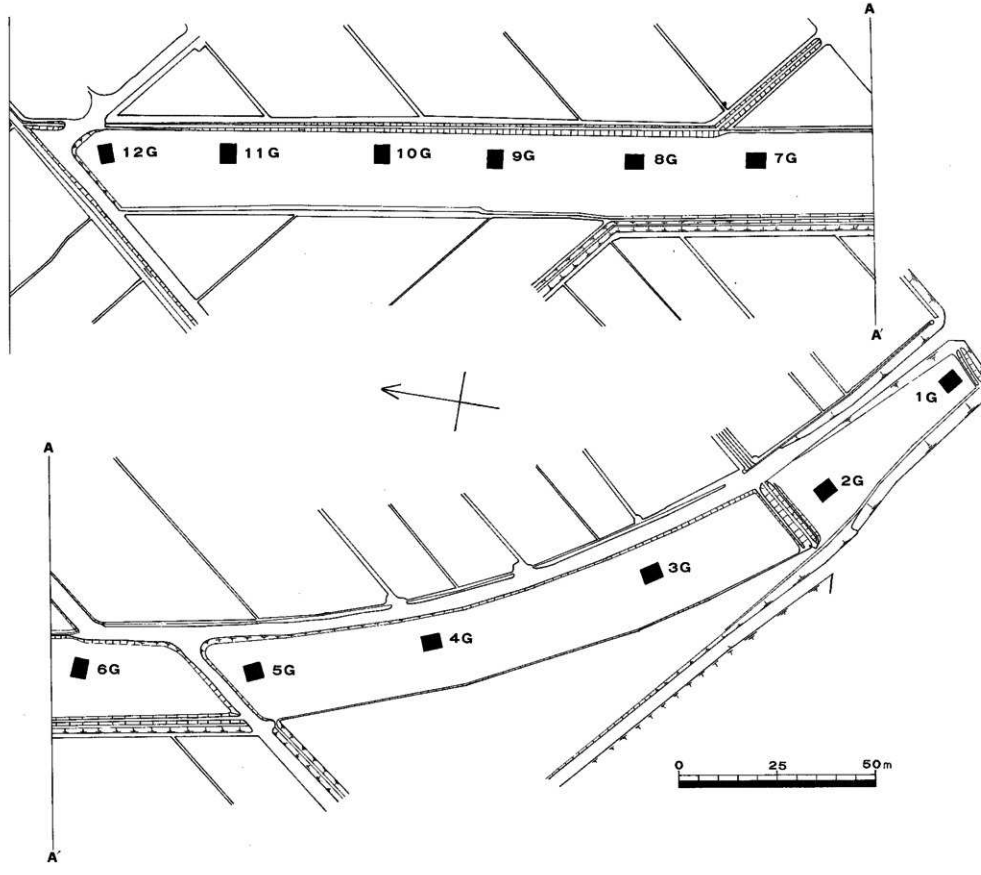
1.盛　土
2.暗褐色粗砂
3.黒灰色泥砂
4.黒紫灰色粘土
5.淡青灰色砂

図版八　柱状断面図


12G
11G
10G
9G
86.800m
88.800m
1.廃棄物
2.暗灰褐色土
3.暗茶褐色土
4.黒褐色砂泥
5.白褐色荒砂
6.淡黒灰色砂泥
7.白灰色荒砂
8.暗白灰色荒砂
9.灰色粘土
1.暗灰褐色土
2.黒褐色砂泥
3.暗灰褐色荒砂
4.黒灰色粘土
5.暗緑灰色粘土
6.黒茶色粘土
7.青灰色粘土
1.茶褐色土
2.黒褐色砂泥
3.茶褐色荒砂
4.青灰色砂
5.暗白褐色荒砂
6.白褐色荒砂
7.黒灰色粘土
8.暗緑灰色粘土
9.黒茶色粘土
10.暗黒色粘土
11.明黄緑色砂
1.茶褐色土
2.暗茶褐色土
3.黒褐色砂泥
4.淡茶褐色荒砂
5.茶褐色荒砂
6.黒灰色粘砂
7.白褐色荒砂
8.黒灰色粘土
9.暗緑灰色荒砂
3m
2
1
0

図版九　柱状断面図

図版十　グリット配置図



県道中主一野洲線工事に伴う
上屋遺跡発掘調査報告書

昭和61年3月

編　集　滋賀県教育委員会

発　行　滋賀県教育委員会
(財)滋賀県文化財保護協会

印　刷　富士出版印刷株式会社